

しゅうそしんらんしょうにんごうたんえ 宗祖親鸞聖人降誕会

じょうどしんしゅう ひら しんらんしょうにん へいあんじだい お ごろ ねん がつ にち げんざい きょうと
浄土真宗を開いた親鸞聖人は、平安時代の終わり頃である1173年4月1日(現在の5月21日)に、京都
ひ の さと たんじょう ちちおや ひ の ありのり ははおや きつこうによ おさな とし しょうにん まつ
の日野の里で誕生しました。父親は、日野有範で、母親は吉光女といたしました。幼い時の聖人は、松
わかまる よ さい とし とき あらそ ま こ しゅつぽん びょうき な
若麿と呼ばれていましたが、4歳の時に父親が争いに巻き込まれて出奔し、母親も8歳の時に病気で亡く
なっていました。

しょうにん たんじょう にほん れきし なが おお か じ き ふじわらし ちゅうしん
聖人が誕生された頃の日本は、歴史の流れが大きく変わろうとしている時期でした。藤原氏を中心と
なが つづ きぞくせいじ あたら たいとう ぶし せい じ か じだい
して長く続いた貴族政治が、新しく台頭してきた武士の政治に変わろうとする時代でした。聖人の生まれ
た年は、へいけ せいけん えいが げんじ きよへい みやこ
平家が政権をにぎって栄華をほこっていました。しかし、1180年には源氏の挙兵があり、都
せんらん お わ じょうきょう じじょう しゅうちゅうてき きょうと
はいつ戦乱が起きるかも分からないという状況でした。そのような事情にかさなり、集中的に京都で
かさい たいふう じしん てんさいちへん つづ お えきびょう りゅうこう ききん ひとびと ふあん くる
火災、台風、地震などの天災地変が続いて起こり、疫病の流行や飢饉で、人々は不安におびえながら苦
せいかつ おく
しい生活を送っていました。

ふあんてい じだい みよ まつわかまる おじ つ てんだいしゅう しょうれんいん
そのような不安定な時代に、身寄りのなくなった松若麿は、叔父に連れられて天台宗の青蓮院というお
てら しゅつけ じゅうしよく じえん そうず きょう よる おそ あした
寺で出家しました。この時、住職の慈円僧都から「今日は、もう夜も遅いので出家は明日にしよう。」と
い 言われましたが、9歳の聖人は「明日ありと思う心のあだざくら よわ あらし ふ (人の世は
むじょう すべ えいえん わたし
無常(全てのものは永遠ではなくうつりかわっていくこと)であり、私の
あす うた しゅつけ はや
のちも明日はどうなっているか分からない」と歌をよみ、出家を早くして
ねが ねが つた しゅつけ
もらえるようお願いしたと伝えられています。こうして、出家した聖人は
さい な ほとけ もと じんせい あゆ
90歳でお亡くなりになるその時まで、仏の道を求める人生を歩んだのでし
ほとけ すく みぶん じょうげ かんけい ひとびと と しんらん
た。仏さまの救いを、身分の上下に関係なく、人々に説きつづけた親鸞
しょうにん たんじょう いわ しゅうそしんらんしょうにんごうたんえ
聖人の誕生を、お祝いする日が「宗祖親鸞聖人降誕会」です。



ことし しょうがくぶ しゅうそしんらんしょうにんごうたんえ きんようび
今年の小学部 宗祖親鸞聖人降誕会は5月14日(金曜日)におこないます。